

# 日本産ヒゲナガコバネカミキリ屬に就いて

林 匡 夫

On the genus *Molorchus* Mulsant from Japan  
(Coleoptera, Cerambycidae) By Masao Hayashi

ヒゲナガコバネカミキリ屬 *Molorchus* は天牛亞科 Cerambycinae, Molorchini 族中の一屬で、小型の種で占められ、その發生は比較的早期であるため、從來あまり注意をひくに至らず、我國からは四種が夫々斷片的に記録されて來たに過ぎない。筆者はかねて本屬に注意し研究を進めつつあつたが、最近に至り從來全く記録を見ない一種及び誤つた名の下に取扱はれて來たもの一種を検出し、且多くの分布上の新事實をも知り得たので、以下に一應記載報告することとした。

本屬の分類に當り特に意を用いた點は、前胸自體及び背板上の隆起（瘤起）又は光澤部並びに點刻の形狀；翅鞘の形狀、觸角の長さ等で色斑は變化の多いことを認めたので、第二次的に取扱つた。

本稿を草するに際し日頃絶大なる御援助を賜つてゐる戸澤信義、大林一夫の兩氏並びに貴重な標本多數を提供、筆者の研究を援助された伊賀正汎、江田茂、松田勝毅の三氏に深謝する。

## I. 新種の記載

*Molorchus* (*Linomius*) *japonicus* sp. nov. ヤマトヒゲナガコバネカミキリ  
(新稱) (Pl. I, Fig. 1)

體は細小、赤褐色、觸角、口器及び脚は黄褐色を呈する。頭部は短く、顔面は稍々暗色を帯び鈍い光澤があり、大點刻を裝ひ、複眼間に極めて細い一縱溝を具へる。觸角瘤は極めて小さいが判然として居り、觸角は細く糸狀で稍長く、腹節中央を越え三節以下全節に長毛を生ずる。柄節は太く、第三節は第四節より僅かに長く第五節と略々等長、第五乃至八節は漸次短く、第九節は第八節より明かに短く第十節と殆んど等長であるが、末端第十一節は第十節より僅かに長い。前胸は巾より長く、前・後方に僅かに狭まり後縁前方で巾廣く縊られ、その前方で最も巾廣く、兩側に小突起を具へる。背面は頭部同様の点刻を密布し、爲に殆んど網目狀を呈し、中央後方に光澤を有する小縱隆一個を具へ、各點刻は夫々白色の長毛を伴ふ。小楯板は凹陷し、小さく略々三角形を呈し、微小點刻を裝ひ暗色の微毛を生ずる。翅鞘は肩部の隆起のあまり發達しない長舌狀を呈し、兩側は略々平行、前胸より僅

かに短く且前胸幅の二倍の長さ、又各翅鞘は夫々基部の巾の二倍以上の長さを有し、先端に向ひ僅かに狭まり、先端は丸く、稍々不規則な數條の小點刻列を有する。基部及び中央より後部は光澤ある帯赤黒褐色を呈し、殘餘の中央部より前方には横帶狀に巾廣く半透明の淡黄色を呈する。體下面は暗赤褐色。特に胸部下面は暗色を帯び、光澤を有し全面に淡色の微毛を生ずる。脚は淡黄色の長毛を生じ、腿節は端部で明かに膨れ、脛節及跗節は腿節より濃色である。

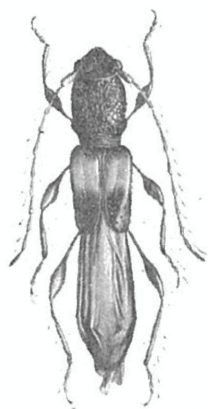
體長；5.2 mm. 體幅；1 mm.

Holotype; 1 Female Specimen, Kyuanji, Kiyotakimura, Mishimagun, Osakufu (大阪府三島郡清瀧村久安寺). July 2nd, '40, Coll. M. Iga.

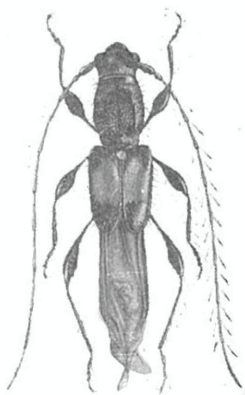
本種は近似の *M. (L.) ishiharai* Ohbayashi と前胸背の構造、背板上の瘤起、點刻の形狀等によつて明らかに區別出来る。

## II. 所謂ヒメコバナカミキリの學名に就いて

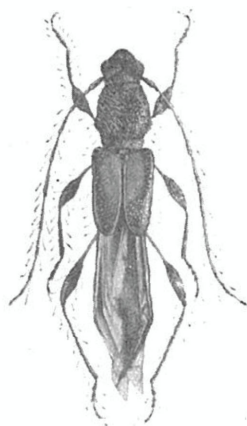
先年玉貫光一、大石貞俊兩氏 ('37) が九州北部より、從來ヨーロッパ、コーカサスより知られてゐた *M. (L.) umbellatarum* (Schreber) を日本未記録種として圖示記録され、ヒメコバナカミキリと新稱し興味ある隔離分布の事實として報告された種の學名に就いて論ずる。この學名を有する種がはたして分布するや否やの點に水戸野武夫氏 ('40) は否定的疑問を持ち、その目錄に分布の疑しい種として一應種名を留められ、次いで松下眞幸博士 ('43) は該種は全くの *M. ishiharai* Ohbayashi の synonym であつて、眞の *M. (L.) umbellatarum* とは異ると斷定されたが、その理由に就いては何等説明を加へられなかつた。併し一應これでこの問題に就いては解決をしたかに見えた。即ち後、關公一氏 ('46) はその目錄に於て *M. ishiharai* の分布に九州を追加して、*M. umbellatarum* を全く除かれ、又松田勝毅氏 ('46) は小倉市福智山の天牛目錄中に *M. ishiharai* を記録されたのは、いずれも前述松下博士の所論を疑なく容認し、この疑問種を單に *ishiharai* そのものと認めたものか、或ひは眞の *ishiharai* と混じて考へて居られるものと解せられる。筆者は玉貫・大石兩氏の記録は記載を伴つて居ないが附圖を檢討した結果次の點でこの種に就いて疑問を持つに至つた。即ち眞の *M. (L.) umbellatarum* は觸角は兩性共十一節で雄では體より明らかに長く、雌でも體より僅か長く末端節には附屬物を有しないのにもかかはらず、圖示された種の觸角は明らかに十二節を有し、且體長より明かに短く別種と認める他ないので、この點に就て玉貫氏にお尋ねした處戦時中の郵便不著か何かの理由で遂に御返事に接せず終つた。附圖は蠶家の不注意により往々にして觸角節を一節多くしたり少くしたりする事實があるが、觸角の長さの體長に對する割合に就いてはその誤が少い様に思ふ。筆者はこの附圖は一應著者が *M. (L.) umbellatarum* と同定された種であることを前提として觸角節を誤りと見なしたが眞にこの圖の通りの種が存在し且これが雄を圖示したものとすればそれは *Linomius* 亞屬のものでなく *Molorchus* (*s. str.*) に含まれるが、雌であれば一新亞屬を創設せねばならなくなる程の特徴であるし、一應附圖ではこれ以上突込んだ檢討が不可能のため北九州産の *Molorchus* 屬標本を友人諸



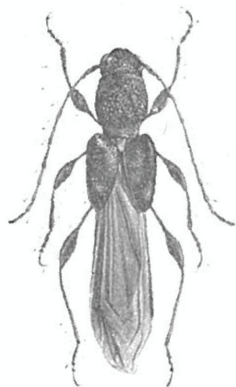
1



3



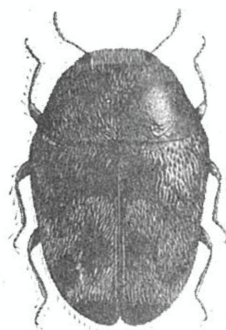
2



4



5



6

1. *Molorchus (Linomius) japonicus* Hayashi ヤマトヒゲナガコバネカミキリ (新稱)
2. *Molorchus (Linomius) kojimai* (Matsushira) コジマヒゲナガコバネカミキリ (改稱)
3. *Molorchus (Linomius) ishiharai* Ohbayashi カヘテヒゲナガコバネカミキリ
4. *Molorchus (Linomius) takeuchii* Ohbayashi タケウチヒゲナガコバネカミキリ
5. *Nothorhina muricata* Dalman ケブカヒラタカミキリ
6. *Paratrachys hederæ* Saunders ミスツケシタマムシ



賢の好意により相當數集め、檢した處、*M. takeuchii* 及右に類似するが甚だ細型の一種を檢出することが出來た。この後者は北九州一帯に春相當發生するものの様で觸角は雄では體長より僅かに長く雌では體長より少し短く、玉貫・大石兩氏の記録圖示種を想像せしめ得るものであつたので力を得て該當する學名の探究を行つたが全く無く一時新しい名稱を附與すべきかと考へたが更に近縁屬中に類似の種を求めた處、松下博士('39)が横濱本牧より一雌を以て記載公表された *Epania kojimai* の記載に完全に一致することを知つた。*E. kojimai* は大林一夫氏('42)が *M. takeuchii* の Synonym であるとされた以外に本種に就いての記録を缺き、筆者は *E. kojimai* は *takeuchii* ではないが、*Molorchus* 屬のもので、この疑問種に當るものとの疑念を持つて、松下博士にその點教示を願つたが、逝去の前であつて詳細な回答に接することが出來ず、唯 *Molorchus* 屬ではなく *Epania* に入るものと信ずる旨の御返事を頂いたに留つた。併し本種の體の構造特に前胸背板の形狀は全く *Epania* よりも *Molorchus* 特に亞屬 *Linomius* に含めるのが最も適當と考へられる處の "auf der Scheibe ..... drei glatte Erhöhungen vorhanden" (*E. Kojimai* 原記載より引用) を呈して居るので、本種を生かして (*takeuchii* との相違は後出檢索表参照)、*Molorchus* (*Linomius*) に含め、この北九州産の疑問種に對する適當な學名としたいと考へるに至つた。處が最近松田氏より送附を受けた本屬標本に *M. (L.) kojimai* (*Matsushita*) に混じ、眞の *ishiharai* を發見したので、確實に *ishiharai* が九州にも分布することが判明した。その考へから前の附圖特に前胸の構造を檢するとこれは *ishiharai* の雌を圖示したものではないかと考へ得る點もあり、左様な觀點よりすれば從來の業績をあまり混亂させずにこの問題を完全に解決し得るので、ここでは一應玉貫・大石兩氏の記録された種は松下博士の斷定の如く *ishiharai* の且雌であつて、觸角の點は附圖の誤であること、關・松田兩氏の記録は少くとも正しいものであることを認めて置き且更に *M. (L.) kojimai* (*Matsushita*) が九州に分布することを記録することとする。次に九州産の *kojimai* の標本に就いて記して置く。(Pl. I, Fig. 2)

小倉市福智山 (1♂, Jun. 29, '46; 1♀, May 4, '47松田氏採); (1♀, May 20/39, 天野昌次氏採) 大分縣祖母山 (1♂, Jul. 26/40, T. Matsumoto 氏採) 鹿兒島 (2♀, Jun. 12/41)

尙本種の和名はコシマコバネカミキリとされてゐるが本屬の種に移された爲他にならひコシマヒゲナガコバネカミキリと改稱して置く。

### III. 本屬の亞屬及び種の檢索表

1. 複眼は大腮基部より離れて位置する。觸角は雄は十二節、體より遙に長く、雌は十一節、體長に略々等しい。第三節は柄節より甚だ長い。頭部は、明かに長く且兩側平行の顆鬚板を有し、頬は複眼前方に於て丸く發達する (*S. G. Molorchus* s. str.) 體は黒色、翅鞘・觸角及び脚は赤褐乃至黒褐色、前胸は長く中央は太く後縁は前縁より狭められ、正中部に小瘤起及其の兩側方に長い各一個の縦隆があり頂部は光澤を有する。翅鞘は短い楕形で後方に向ひ狭められ翅端は丸く、背面上中央稍々後方に斜行する淡黄半透明の隆起紋を有する。體長: 6-13mm. Europe, Siberia, Transcaucasia, Caucasia, Manchuria, Saghalien, Corea,

- Japan (Hokkaido, Honsyu) .....  
 ..... **M. (s. str.) minor** (Linne) シラホシヒゲナガコバネカミキリ
2. 複眼は大腮基部に近く位置する。觸角は兩性とも十一節、第三節は柄節と等長か又は短い。頭部は、非常に短い額頤板と複眼前方で齒狀を呈する頬骨を有する (S. G. **Linomius Mulsant**)..... 3
3. 前胸背板の點刻は極めて大きく且密布され、爲に殆んど網目狀を呈する。翅鞘は長舌狀で前胸より僅かに短く、前胸背幅の二倍、各翅鞘は夫々基部の二倍以上の長さを有し先端に向ひ漸次狭まり、先端は丸い。體は細小、赤褐色、口器・觸角は黄色、肢はより淡色。雌の觸角は腹部中央を越える。第三節は柄節と殆んど等長、前胸は巾より長く、背板中央稍々後方に光澤ある小縦隆一個を具へる。翅鞘肩部の隆起は明かでなく、稍々不規則な數條の點刻列を有し、基部及中央より後方は光澤ある帶赤黒褐色を呈し、殘餘は廣い横帶狀に半透明淡黄色を呈する。體長 5.2 mm. Japan (Honsyu) .....  
 ..... **M. (L.) japonicus** Hayashi ヤマトヒゲナガコバネカミキリ (新稱)
4. 前胸背板の點刻は比較的大きいが不規則且稍々、疎布せられ、網目狀を呈しない ..... 5
5. 前胸は比較的細長、小點刻を密に強く裝ひ、背板上には正中部に長い一個の小縦隆及びその兩側より前方に彎曲し前縁後方で互に結合する隆起を有する。體は細長、光澤ある栗茶色、頭部前胸は濃色。觸角第三節は第一節より僅かに短い。翅鞘は前胸より僅かに長く各翅鞘は夫々の基部の巾の二倍の長さを有し、肩部は稍々發達し、中央部に半透明淡黄白色の基部側に波狀に凸出する巾廣い横帶を有する。體長 5—6mm. Japan (Honsyu, Kyusyu).....  
 ..... **M. (L.) ishiharai** Ohbayashi カヘデヒゲナガコバネカミキリ
6. 前胸は比較的巾廣く、中央少しく後方に圓錐形の側方小突起を有する。全面に比較的大きい點刻を密布する ..... 7
7. 前胸は側方に丸く膨出する。背板上には前縁中央・その少し後方の兩側及び正中部少し後方の四點に夫々光澤ある平滑部を有する。翅鞘は前胸より僅かに長く、肩部隆起のよく發達した心臟形を呈し、後方に強く狭まる。各翅鞘は基部巾の二倍の長さに達しない。體は比較的巾廣く黒褐色、頭部・前胸は黒く、翅鞘は小點刻を散布し、内側は淡黄褐色、外縁及翅鞘は褐色で光澤を有し、脚は黄褐色。體長 : 6.6-9mm. Japan (Honsyu ? Kyusyu, Loochoo) .....  
 ..... **M. (L.) takeuchii** Ohbayashi タケウチヒゲナガコバネカミキリ
8. 前胸は比較的細く、側方に強く丸く膨れない。背板上には前縁後方中央との間の兩側及び正中部稍々後方に三個の光澤ある平滑部を有する。翅鞘は明かに前胸より長く、肩部の發達は鈍く、兩側は略々平行で先端前で狭められる長舌狀を呈する。各翅鞘は基部巾の二倍の長さを有する。體は細く黒色、觸角は黒褐色、翅鞘は内側淡黄色を呈する部分を除き暗褐色、肢は腿節の基部暗色を呈する以外赤褐色である。體長 : 7—8mm 前後. Japan (Honsyu, Kyusyu)..... **M. (L.) kojimai** (Matsushita) コシマヒゲナガコバネカミキリ (改稱)

## IV. 新分布其他

1. *Molorchus* (*Linomius*) *ishiharai* Ohbayashi カヘデヒゲナガコバネガミキリ



カヘデノコバネハナカミキリ) (Pl. I, Fig. 3)

Ohbayashi, Trans. Kansai Ent. Soc., 7, p. 12, pl. II, fig. 2, (1936)

M. (*Linomius*) *umbellatarum*, Tamanuki et Oishi, Mushi, IX (2), p. 111, f. 1, (1937)

M. (*Sinolus*) *ishiharai* Mitono, Cat. Col. Japan., 94, 8, Ceramb., p. 62, (1940); Seki, Cat. Longic. New Japan, p. 41, (1946)

本種前胸背の隆起は一見不明瞭で且個體により發達の程度に差があるが、明らかに存在して居り未だ全く之を缺いた個體を検しない。最もよく發達したものでは正中部に存する一縦隆の兩側のものは前方では前縁後方で互ひに結合し、後方では外方に彎曲して、後縁隘狀部側縁に達し更に側方に迄のびる。故に本種は前胸背板上に relief を缺く點で造られた S. G. *Sinolus* Mulsant には入らず、やはり *Linomius* に含まれるものである。目下我國に産することの判明したもので *Sinolus* に入るべきものはない。體の色彩及斑紋には變化があり暗色を帯びる個體では、翅鞘中央の半透明淡黄白色帯が縮小して一見 M. (L.) *kojimai* の如き斑紋となる傾向が見られる。腿節の肥大度は M. (L.) *takeuchii* より弱く、M. (L.) *kojimai* より少しく強い。最近江田茂氏より伯耆大山産 (1♂, 1♀, Jul. 25'37) 松田勝毅氏より小倉市福智山産 (4♂♂, Apr. 28'46) (1♂ 1♀, May 4'47) の本種を検することが出来た。何れも新しい分布地である。本種に就いては原著者である大林一夫氏より Cotype を拜借して研究するを得た。體の構造より検討するのに本種はヨーロッパ、コーカサスに分布する M. (L.) *umbellatarum* Schreber に最も近縁の種で或ひは該種の極東又は日本に於て變化したものが本種となつたものではないかと考へる。

2. *Molorchus* (*Linomius*) *takeuchii* Ohbayashi タケウチヒゲナゴバネカミキリ (タケウチモモブトコバネカミキリ) (Pl. I, Fig. 4)

Ohbayashi, Nippon no Kotyu, I (1), p. 6, (1937); Kamiya & Ohbayashi, ditto, p. 43, fig. 5, (1937); Kamiya, Akitsu, I (3), p. 97, (1938); Ohbayashi, Ins. World, Gifu, 46 (537), p. 15, (1942); Seki, Ins. World, Gifu, 48 (562), p. 12, (1944).

記録に用いた標本では顯著な個體變異を殆んど認められなかつた。筆者の今回檢し得た標本はいずれも九州本島のものばかりで、原産地である屋久島、大林氏('42)の本州横濱及び關氏('44)の奄美大島の標本は全く見る事が出来なかつた。即ち鹿兒島産 (1♂, Jul. 3'41, Coll. M. Ohyama; 1♀, Jun. 27'41, Coll. I. juin, 1♀, Jun. 3'39, Coll. M. Sasaki; 1♀ May 29, 40), 鹿兒島附近 Shibisun産 (1♀, Jul. 11'40, Coll. H. Miyasaki), 祖母山産 (1♀, Jun. 22'41, 1♀ 不明) の七頭である。九州本島からは新しい記録である。九州本島産の本種の體長は8—9mmの範圍に入る。(Type, 8mm.)

尙大祿氏が GALLIOTS 氏の採集品により本種を横濱から記録され E. *kojimai* を synonym とされたのは E. *kojimai* が *Molorchus* 屬のものであり且横濱がその Type Locality である處から左様取扱はれたものと考えられる。本種は従つて目下の處本州には産しないものと考えるのが穩當であらう。又關氏の記された體長6.6mmは本種のものとしては異常に小型の點で注意をひき記載によつても其の形態に多少の相異點を認めてゐる。

附記 他に神崎精治氏[蟲の世界, 4 (11/12), p. 10 (1941)] が群馬縣法師温泉から本屬のものを報告されてゐるが、記載を伴はず、その正確な種名を判定することが出来ず一應割愛した。